

## タイ旅行フェア Thai International Travel Fair 2016 (TITF2016 #18)

クエアシンガポール事務所は、2月に開催された「Thai International Travel Fair (TITF2016 #18)」に参加し、ジャパンパビリオン内での日本政府観光局 (JNTO) パンコク事務所と連携した日本全国の観光 PR を実施、あわせて単独出展した北九州市・下関市の共同ブースにて地方への誘客促進を支援しました。

### 1 過去最高を更新し続けるタイの訪日旅行市場

JNTO が発表した 2015 年の訪日タイ人旅行者数は、前年比 21% 増の 79 万 6,700 人 (推計値) となり、4 年連続で過去最高を更新しました。国・地域別でタイは第 6 位、ASEAN では第 1 位で、域内 2 位のシンガポールに 2 倍以上の差をつけています。その旺盛な訪日旅行熱そのままに、ジャパンパビリオンには TITF 会場内でも圧倒的に多くの来場者が押し寄せ、すれ違うのもやっとという盛況ぶりでした。

### 2 ジャパンパビリオンでの観光 PR

タイでは 4 月のソンクラーン (タイの正月) が最大の旅行シーズンです。今回のジャパンパビリオンでは、ソンクラーンを控えたタイ人観光客を呼び込もうと、見ごろの時期が重なる桜や春の日本をイメージした装飾が施され、過去最多となる 84 もの団体が出展しました。北海道から沖縄まで、日本全国から地方自治体や企業が出展し、特に東北、中部、関西、中国、四国、九州など広域での出展や、自治体、鉄道会社、地元の旅行会社、飲食店等が官民一体となって出展したブースが目立ちました。

JNTO の総合窓口 Visit Japan カウンターを訪れた来場者は、東京、大阪、京都といったゴールデンルートについてはパンフレットや地図を取りに来るだけの人が大半でした。多くの来場者で賑わうジャパンパビリオン他方、地方の観光地等についてはかなり細かな質問が頻繁に聞かれ、新たな旅行先を探している個人旅行者 (FIT) や訪日旅行リピーターの姿が多く見られました。実際に、いくつかの自治体ブースの担当者からも個人旅行のリピーターが多く訪れているという声が聞かれました。

JNTO は日本の地方の魅力発信に注力しており、ゴールデンルートだけでなく訪日タイ人観光客が全国の地方を巡るよう促す取り組みを進めています。この流れを受けて、鉄道各社も様々な鉄道パスを売り出しています。JR 東日本と西日本は 4 月から販売する「東京・大阪『北陸アーチパス』」のタイ語版チラシを配付し、東京・大阪以外の旅行先を求めるリピーターに北陸エリアを周遊する広域観光ルートの PR に努めていました。

FIT 化が進むタイの旅行者が地方への関心を高めている今、昨年から 22 団体も増加したジャパンパビリオン出展者数からもわかるように、日本の地方自治体等のタイにおける観光誘客 PR はますます熱を帯びています。

### 3 北九州市と下関市の共同ブース

北九州市と下関市が共同で出展したブースでは、タイで人気のある北九州市の「<sup>かわち ちんじ</sup>河内藤園<sup>えん</sup>」の藤のトンネルを模した飾り付けがなされ、会場内でも特に目立つブースとなりました。「実際にこの場所に行きたい」と言う来場者が多く、記念撮影をする列も絶えませんでした。TITFのような旅行博で情報を得ることが多いタイの方にとって、訴求力のあるディスプレイでのPRは分かりやすく効果が高いことがうかがえます。

また、来場者からは「〇月に日本に行くが、何の花が見ごろか」といった日本の「花」に関する質問が多く聞かれました。タイの方にとって、きれいな花や自然と共に写真を撮ることは、食事や温泉などと並んで旅行の大きな目的の一つです。旅行博でPRを行う際は、それぞれの地域の桜の開花時期はもちろんのこと、植物園やフラワーパークなどで「いつ何の花を見ることができるか」という点を事前に予習しておくの良いのではないのでしょうか。

### 4 Thai International Travel Fair 2016 (TITF2016

#### #18) の概要

ひときわ目をひく藤のトンネル

概要	TITF はタイ最大級の国際旅行フェアで年2回(2月・8月)開催される
会期	2016年2月17日(水)～21日(日) 10:00～21:00
開催場所	タイ・バンコク クイーンシリキット・ナショナルコンベンションセンター
主催	タイ観光サービス協会(Thai Travel Agents Association:TTAA)
対象	一般消費者
入場料	無料
出展団体数	399団体 1,092ブース(主催者発表)
来場者数	50万人(主催者発表)
会期中の旅行商品売上総額	7.5億バーツ(主催者発表)(約23億7,000万円)
ジャパンパビリオン参加団体	埼玉県・群馬県・新潟県、株式会社スルッとKANSAI・南海電気鉄道株式会社・関西空港交通株式会社、阪急阪神ホテルズ、プレミアム・アウトレット ジャパン、千葉県、京成電鉄株式会社、スーパーホテル、 <u>関西地域振興財団</u> 、 <u>一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー</u> 、アルピコホールディングス株式会社、 <u>中部広域観光推進協議会</u> 、三井不動産グループ、 <u>足利市/足利市観光協会</u> 、スゴい!北海道、 <u>一般社団法人九州観光推進機構</u> 、株式会社札幌かに本家、東日観光株式会社、 <u>セントラルジャパン(岐阜県・長野県・名古屋観光コンベンションビューロー)</u> 、 <u>公益社団法人 姫路観光コンベンションビューロー</u> 、 <u>仙台市/東北観光推進機構</u> 、平成エンタープライズ株式会社、 <u>公益財団法人東京観光財団</u> 、栃木県、富士箱根伊豆国際観光テーマ地区推進

	<p>協議会、和歌山市、茨城県、株式会社ジャパンインバウンドソリューションズ、一般社団法人東京臨海副都心まちづくり協議会、株式会社共立メンテナンス、<u>一般社団法人佐賀県観光連盟</u>、<u>中国地域観光推進協議会</u>、株式会社Relation、リーガロイヤルホテルグループ、東日本旅客鉄道株式会社、<u>四国ツーリズム創造機構</u>、富士急行株式会社/遠州鉄道株式会社、一般社団法人ジャパンショッピングツーリズム協会、三越伊勢丹ホールディングス、<u>瀬戸内ブランド推進連合</u>、株式会社オリエンタルランド、星野リゾート トマム、<u>那須町インバウンド協議会</u>、<u>熊本県</u>、名古屋鉄道株式会社、独立行政法人日本学生支援機構、東急ステイサービス株式会社 東急リゾートサービス、<u>美咲市</u>、東京スカイツリー・東武鉄道グループ、西武鉄道株式会社、<u>公益社団法人びわこビジターズビューロー</u>、<u>阪急阪神ホールディングス株式会社</u>、<u>大分県</u>、株式会社プリンスホテル、<u>岡山県</u>、西日本旅客鉄道株式会社、小田急電鉄株式会社、株式会社ダイヤモンド・ビッグ社、株式会社オルゴール堂、<u>公益財団法人福岡観光コンベンションビューロー</u>、西日本鉄道株式会社、株式会社アジア・インタラクティブ・サポート、商船三井フェリー株式会社、<u>みなかみ町</u>、<u>紀伊半島滞在型観光プロモーション事業実行委員会</u>、Home of Mt.Fuji, <u>Shizuoka静岡県・静岡市・（公財）静岡観光コンベンション協会</u>、<u>一般社団法人小樽観光協会</u>国内外観光客誘致実行委員会、東京地下鉄株式会社、<u>一般社団法人京丹後市観光協会</u>、<u>公益社団法人北海道観光振興機構</u>、<u>高野町・一般社団法人高野町観光協会</u>、株式会社Relation、<u>八代市経済交流文化交流部</u>、(株)テレコムスクエア、東急電鉄株式会社、神姫バス株式会社、京都着物レンタル夢館、南薩観光、大丸松坂屋、株式会社ワイヤ・アンド・ワイヤレス、有限会社春華堂、KNT-CTホールディングス、<u>鳥取県</u>、株式会社Relation</p> <p>計84団体（下線部は自治体関連の35団体）及び日本政府観光局（JNTO） ※この他、ジャパンパビリオン外に、北九州市・下関市、鹿児島県も出展</p>
訪日旅行商品購入者数	合計 8,516 人(うち団体旅行商品購入約 13%、FIT 商品購入約 83%)
訪日旅行商品販売総額（概算）	約 9,650 万パーツ（約 3 億 500 万円）

※TITF 出展に関するお問合せ先：日本政府観光局（JNTO）海外マーケティング部アジアグループ 電話：03-3216-1902